
社会福祉法人 子供の家
ゆずりは

2023年度 年次活動報告書

2023.4 ~ 2024.3





安心を育む

ゆずりはが大事にしていることは、相談者の「自立」ではありません。私たちが、たどりついてくれた人たちにとって安心して過ごせる止まり木のような存在になり、生きていてもいいんだ、ここにいてもいいんだという気持ちを育てていくことが、健やかに生きる力につながると信じ、日々の活動に取り組んでいます。2023年度の活動について、ご報告いたします。

2023年度も引き続き、「私たちだけが安心を提供する」という構図を変えていくことがテーマの年でした。支援の網からこぼれ落ちてきた人たちが「自らでも安心と幸せを育ていける」ように、スタッフのひとりひとりが全力で奮闘してくれました。新規相談も引きもきらず届き「電話が通じない」「メールの返信が来ない」などの声もいただき、ご迷惑もおかけしました。ひとつでも多くの相談の声に応えたい思いと、健全かつ安定した事業運営とのバランスの取り方も、今後の大切な課題です。またアフターケア事業が改正児童福祉法で制度化され、サポートの対象を属性で括らない事業の実施のための移行期となる年でもありました。拠点事業のスタートに向けて、全国の仲間たちや自治体からの訪問や問い合わせも多くなりました。ゆずりはの活動が、社会と連携し社会に委ねていく事業であるよう取り組んでいきたいです。



所長：高橋亜美

大切にしていること

相談者の困難と向き合い、安心・幸せ・楽しいをともに育む。
相談者が「安心して生きていくこと」を社会と連携し、社会に委ねていく。

主な事業内容

- 【個別相談・伴走サポート】 DV、借金、帰る場所がないなどの困難を共に考え、整理し、手続きする伴走サポート
- 【拠点を活用した各種サロンの運営】生活上で不安・苦しみを抱えた人がつながり、安心して過ごせる場所づくり
- 【ゆずりは工房】 人とのコミュニケーションに不安や困難を抱える方とともにジャムの製造を行う
- 【学習会】 高卒認定資格などを取得するための学習会を無料で実施
- 【MY TREE ベアレンツ・プログラム】 虐待に至ってしまった保護者へのサポートプログラム



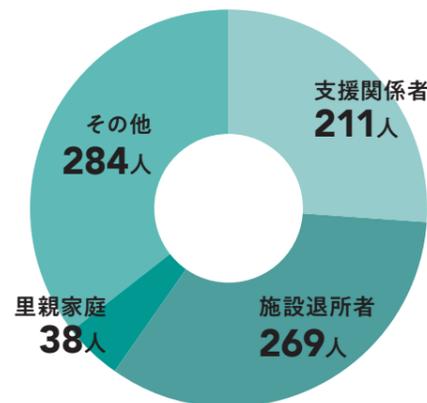
個別相談

面談や各種申請・手続きの同行などを通じて
さまざまな困難に伴走

2023年度の活動実績

相談者数 **802人**

相談対応件数 **約6万件**



生活相談

41,809件

就労・就学相談

7,862件

居場所相談

10,320件

児童養護施設などの「社会的養護」を経験した方や、虐待など困難な状況を経験された方を対象に、幼少期のトラウマ、借金、家族やパートナーからの暴力、予期せぬ妊娠など、一人で解決するには難しい課題について、共に考え、整理するサポートを個別に実施しています。また、相談内容に応じて、心療内科・産婦人科、弁護士事務所などの専門機関へのつなぎや、生活保護の申請や支援措置手続きなどの伴走サポートを行っています。2023年度は802人の方が勇気をもって相談にたどり着いてくださいました。

Aさんの場合 (30代女性)

Aさんが小さいころ、母親の再婚相手になった男性は、些細なことでAさんを殴り、それ以外の時は居ないものように扱いました。母親がかばってくれることはありませんでした。Aさんは、常に大人の顔を伺いながら、子ども時代を過ごしてきました。高校卒業と同時に親元を離れましたが、就職先で小さなミスをきっかけに暴力を受けた過去がフラッシュバックし、仕事は続けられなくなりました。頼れる家族はおらず、家賃が滞納し、強制退去を迫られたとき、ゆずりはにメールをくれました。スタッフが、Aさんのもとへ赴き、生活保護の申請や通院のサポートなど安心して暮らしていくための伴走をしました。受けた傷がなくなることはありませんが、ゆずりはのサロンやジャム作りなどにも参加し、少しずつ穏やかな生活を取り戻しています。

※実際の相談内容をもとに、個人が特定されないように内容を加工しています

Bさんの場合 (20代男性)

Bさんは、母と、4歳離れた兄と3人で暮らしていました。母はいつでも兄とBさんを比較しては、Bさんに「兄を見習え」「何をさせてもお前はダメだ」などの暴言を吐きました。年を重ねても母の暴言は止まらず、兄からは暴力を受け続けました。そんな時、ネットニュースでゆずりはを知り、相談に辿りつきました。Bさんは、ゆずりはのスタッフのサポートのもと、家から離れ、住所が母や兄にわからないよう、支援措置をかけました。精神障害の手帳も取得し、現在は職業訓練のプログラムなども受け始めています。

拠点での取り組み

東京都国分寺市にある拠点を活かした さまざまな取り組み

ゆずりはサロン

安心して過ごせる場所

毎週水曜日
11時～17時

児童養護施設などの社会的養護を経験した方や、さまざまな生きづらさを感じている方を対象にしたサロンです。軽食を食べたり、音楽を聴いたり、おしゃべりしたりしながら、集う人にとって安心して過ごせる場所をつくっています。サロンに関心がある、訪れてみよう、と思う方は、ホームページの問い合わせメールで連絡もできます。サロンオープン前に事業の説明など、事前にお話をすることができます。



スタッフ：えいこ

スタッフコメント▶子ども時代に安心した気持ちや関係性のなかで、何気ない日常を積み重ねることが、とても難しかった……。だから今、ゆずりはサロンを訪れる。おやつを食べながら他愛もない話をしたり、音楽を聴きながら、ウトウトしたり。祝日をのぞく水曜日13時から17時、何時に来て、何時に帰っても。事前の予約も必要なし。立ち寄ってみよう、と思うときに訪れる場所。特別なイベントがあるわけでもないけれど、水曜日の午後13時から17時に「ゆずりはサロン」がある。ただそこに、その場所が存在している。平凡な毎日の日常の延長としてあり続ける。そんな場所であつたらいいな、と思っています。出会えた人たちと、安全で安心な、心地よい時間を過ごせる空間づくりを大切にしています。

ゆずりは工房

ともに働く

毎週木曜日
13時～16時

生活上の困難を抱え、毎日働くことが難しい方を対象に、ゆずりはのスタッフとともにジャムづくりを行っています。工賃を当日お渡しし、働いてお金を得る喜びも感じられる機会となることを目指しています。2024年度は、工房の開始から10年目の節目を迎えます。工房の初期の頃からずっとお世話になっている農園さんから、農園作業の委託を受ける予定もあります。また新たな作業が加わることで、良い変化や楽しさが生まれていくことを願っています。



スタッフ：ベッキー

スタッフコメント▶「働く」を通じて一緒に安心と楽しいを育みたいという思いをもって、祝日をのぞく毎週木曜日の午後3時間、ジャム作りとそれに関連する作業を続けています。安心と楽しいは最初からここにあるものではなくて、不安や苦しい思いをもって集ったこの場所で、共通の大切なものを見つけながらギザギザと育まれていくものなのだと感じています。ゆるやかに、でもこの3時間だけは働くことに集中しよう。参加にあたってこと細かにいろんなことを聴取することもなし、来るか来ないか特に連絡もいらないし、しばらく来れなくなってもまた自分のタイミングで再開して大丈夫。ただ、来れるときは3時間働ける心身の状態と状況で来て、工房の安心と安全のために協力はしてほしい。そんなことを伝えながら、美味しいジャムを作ってたくさん売って工賃を上げていこう!とスタッフも利用者も皆で頑張っています。

学習会

進学や就職のステップに

毎週水曜日
18時～20時半

安心して学ぶ環境を得られなかった方たちを対象に、高卒認定資格を取得するための学習会などを実施しています。参加費は無料で、学習会の後は軽食の時間を設けています。



スタッフ：ゆうじ

スタッフコメント▶週1日で2時間。安心して学習できる時間と学習の進め方も本人と調整しながら、本人が納得できる形で積み重ね、継続できる環境づくりを大切にしています。2023年度は、一人の利用者が受験にチャレンジするために、毎週休まずに努力を積み重ね、見事、合格に至りました!合格後に本人が伝えてくれた「本当にありがとうございました。」の一言は学習会に携わっている自分にとって、とてもうれしく、希望を感じるものになりました。みなさんが過酷な状況を耐え抜き、日々自分自身と葛藤し向き合いながらも、自分なりの形で前に進もうと努力する姿は、私たちスタッフにとって挑戦する勇気と継続の原動力になっています。

誰でもサロン

多様な人とつながる

毎月第3金曜日
17時～20時

地域の方や、ゆずりはの活動に関心のある方ならどなたでも参加できるサロンを実施しています。ごはんやお酒を楽しみながら、ゆずりはの活動を知っていただき、外に開いていくことをめざしています。



スタッフ：りょうこ

スタッフコメント▶地域や色々な方々にゆずりはの事を知ってもらう為に、年に1度「ゆずりはマーケット」として物品販売や軽食提供をした事が始まりでした。その後、相談対応などに時間を費やす事も増えなかなか開催ができないままでした。「活動を知りたい」「見学したい」などの声を定期的にいただくなかで、オープンに集える場所として月に1回程度の不定期運営をしています。

Share サロン

サポートする人にも安心を

毎月最終月曜日
12時～17時

対人援助職・支援職の方を対象としたサロンです。相談に来てくださる方の安心・安全を育むことと同様に、伴走サポートの対応をする方々も健やかな気持ちでいられるよう、軽食をともにしながら頑張りや大変さを分かち合います。



スタッフ：ベッキー

スタッフコメント▶対人援助職を続けていくことは、自分自身の見ないようにしていたことに気づいたり、チームや組織を構成する人たちそれぞれの価値観がぶつかり合ってしまうことも多く、喜びだけではなく傷つきやしんどさもともないます。それらを安心して話せる場があることが、援助者だけではなくその先にいる相談者の方にとってもまた安心な支援につながっていくのだと感じています。研修や改まった場も大切ですが、ふらっと居合わせた出会いの中だからこそ、出し合えるものもあると思いながら。最終月曜日の12時～17時オープンしています。

MY TREE ペアレンツ・プログラム

虐待に至ってしまった保護者へのサポート

子どもへの虐待の背景には、保護者自身がこれまで人として尊重されてこなかった痛みや悲しみが怒りの形で子どもにぶつけられてしまうケースが多々あります。ゆずりはではこうした保護者へのサポートとして、MY TREE ペアレンツ・プログラムを実施し、苦しみの連鎖を断つことをめざしています。



スタッフ：ももこ

スタッフコメント▶「子どもを傷つけることをやめたい」そんな変わりたい願いと共に、多くの母親たちがプログラムに参加してくれました。怒りの裏側にある気持ちに気づき、正直に語っていくことで、もう一度自分本来の生きる力を取り戻していく姿に、私たちも勇気づけられます。今年度は父親プログラムも実施予定です。

ユッカ

ヤングケアラーのためのオンラインサロン

2024年1月からスタートした「ユッカ」は、病気・依存症などを抱える親族と暮らし、家事や家族の世話で自分の時間を持たず、安心して家で暮らすことができなかつた方たちが集って語るオンラインサロンです。クローズドな場で、これまで抱えてきた苦しみを分かち合い、傾聴しあいます。



スタッフ：こまち

スタッフコメント▶ 2023年度から始まった、ゆずりはではまだ新しい事業です。ユッカの真っ直ぐに伸びる幹と白い花にその思いが込められています。オンラインサロンでは、参加者がいままで言葉にできなかった自分の気持ちを語り、ただじっと仲間の語りに耳を傾け受け止めます。2名のピアファシリテーターがメンバーとしてグループに入り、「わたしたちひとりひとりが、空に伸びていくように咲くユッカの花のように」そんな共通の思いを持って、3ヶ月に渡って5回のサロンを開催し、ともにかけがえのない時間を過ごしました。

ゆずりはの365日

サロンや工房に集って生まれる「安心」や「楽しい」もありますが、時にぶつかり、傷つけあうこともあります。利用者もスタッフも苦しくなるときもあります。深い傷つきを抱えたひとたちが安心して居られる場所づくりは、とても大切で、とても難しいことです。



中村農園での農作業。収穫したいちごでジャムづくり。



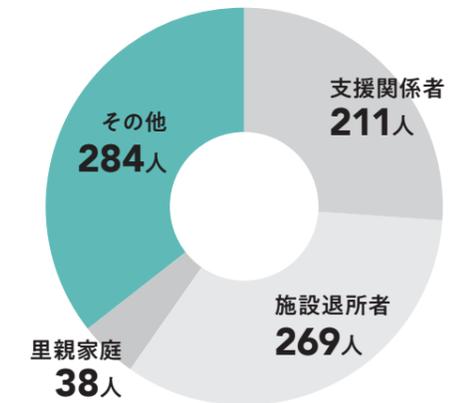
ゆずりは工房メンバーでのバーベキュー。喧嘩しても仲よし。

もっと多くの、生きづらさを抱えた方へ

社会的養護を 経験していない方への サポート不足

ゆずりはは、児童養護施設や里親を巣立った方を対象にした相談所として、2011年にスタートしました。しかし、13年の活動の中で出会ってきた人たちは、こうした社会的養護を経験した人ばかりではありません。精神的な虐待や性虐待、ネグレクトなど、外から見えづらい傷を負いながら必要なサポートとつながれなかつた方々は、周囲に頼れる家族がおらず、孤独な中でさまざまな困難を抱えています。

2023年度の相談者の内訳



社会的養護経験者以外からの相談が 一定数存在

2024年4月から「社会的養護自立支援拠点事業」を受託

ゆずりはは、社会的養護の経験の有無に関わらず、相談して下さった方ひとりひとりの苦しみや不安に耳を傾け、伴走サポートを行うとともに、生きづらさを抱えた方へのサポートが全国で広がっていくよう、政府への提言活動を行ってきました。こうした活動も後押しとなり、2024年4月の児童福祉法改正にあわせ、ゆずりはのような活動が「社会的養護自立支援拠点事業」という公的な制度として施行されることになりました。この制度は、児童養護施設などの経験者に限らず、さまざまな事情で親や家族を頼ることができずに困難を抱える人を対象としている点が特徴で、相互の交流を行う場所を開設し、対象者に対する情報の提供、相談・助言、関係機関との連絡調整などを行うことが定められています。ゆずりはは、2024年4月に東京都から本事業を受託し、社会的養護経験の有無に関わらずより多くの方へ寄り添うため、これまでに実施してきた「居場所づくり」「個別相談」「専門機関へのつなぎ」「各種手続きの伴走」などのサポートをさらに推進してまいります。

「アフターケア相談所ゆずりは」は「ゆずりは」へ

この度の「社会的養護自立支援拠点事業」の受託を受けて、ゆずりはは事業所名を「アフターケア相談所」から「ゆずりは」に変更いたします。もともと、社会的養護経験者の“その後”をサポートする相談所として設立したゆずりはですが、「アフターケア」の看板を下ろし、傷を抱えながら適切なサポートに繋がれず大人になった方も含め、もっと多くの人の生きづらさに寄り添っていきたくて考えています。

2024年度の新しい取り組み予定

ゆずりはの新しい拠点、はじまります！

ゆずりはは、2024年度中に新しい拠点の設立を構想しています。その名も「アジュール・プロジェクト」。新たに設立する拠点では、現在の国分寺の拠点にはない宿泊の機能を備え、「今日、帰る場所がない」などの緊急度の高いSOSに応えるほか、相談者やスタッフ、地域の人、異業種の人と交流できる場づくりを行い、従来の福祉の枠組みにとらわれず、安心や楽しさをみんなで育むことを目指しています。

【その他の新しい取り組み予定】

- MY TREE ペアレンツ・プログラム 父親向けプログラムの実施
- 開所14年目を迎え、ゆずりはの事業報告や感謝を伝える「ゆずりはフェス」の開催

ご支援の輪

ゆずりはは、さまざまな方々からの応援のもと活動しています。そのご支援や連携先は、福祉の枠におさまりません。ご支援のかたちを一部ご紹介いたします。

+ IPPO PROJECT ドネーションバザー

ファッションが持つポジティブな力を社会問題解決につなげる活動です。スタイリストの井伊百合子さん、編集者の渡部かおりさん、フリーランスPRの枝比呂子さんら、ファッション業界で活躍する3人が主催し、ドネーションバザーの売り上げをゆずりはに寄付してくださっています。



クリエイション・アムール

「美・衣・食・住」などの全ての暮らしのカテゴリーから愛あるブランドストーリーや丁寧な物づくりにこだわるブランドを厳選し紹介するライフスタイル総合展示会です。ゆずりはのジャムを出展させていただきます。



ご寄付のご案内

ゆずりはの活動は、個人・法人の皆様からのご寄付に支えられています。これまで公費での助成対象外であった、社会的養護を経験されていない方へのサポートを実施できたのも、皆様からのご支援があったからです。2024年4月より社会的養護自立支援拠点事業を受託しましたが、支援にかかる経費や人件費等を合わせると公費の助成ではまかなうことができず、毎年1,000万円近くの金額を集めなければ運営を維持することが難しい状況です。

皆様からのご支援を賜りつつ、この活動が社会にとって必要不可欠な事業であることを発信し、ゆずりはのような「安心して相談できる場所」が全国で開所されていくことを目指して活動してまいります。

・クレジットカード

・Apple Pay



<https://congrant.com/project/yuzuriha/7907>

・直接のお振込

三井住友銀行
清瀬支店
普通 4790030
シャカイフクシホウジン コドモノイエ

ゆずりは
サポートメンバー

奨学生ソーシャルワーカー：佐藤優弥 | 新規事業ディレクター：今井峻介 | ゆずりはPR：小柳和歌子 | ユッカファシリテーター：酒井奈津希
学習会シェフ：矢崎誠 | 学習会講師：鈴木日菜里、浅野瑠衣 | MYTREE スタッフ：網谷勇気、遠藤京子、青山千鶴 | デザイン：本郷かおる